

# 北海道立 生涯学習推進センター

# 研修会 Report

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 8階  
【E-mail】 kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp

【電話】 011-204-5781 FAX 011-261-7431  
【HP】 <https://manabi.pref.hokkaido.jp/>



## 生涯学習活動実践交流セミナー 2月15日(木)～16日(金)「かでの2・7」で開催

道内各地域における生涯学習活動の一層の推進を図るため、実践事例の交流等とおし、北海道における生涯学習活動推進上の課題解決を図ることを目的に、北海道社会教育主事会協議会と共催で本研修会を実施しました。2日間の日程で開催した研修の概要をお知らせします。詳しくは当センターまでお問い合わせください。

### 行政説明

文部科学省生涯学習政策局社会教育課  
課長補佐 丹野 史教 氏



「地方創生の時代における社会教育の今後の方向性」と題して、地域社会を取り巻く環境の変化の現状や事例、社会教育に関する答申、社会教育主事講習規定の一部改正や公立社会教育施設の所管の在り方検討に関する事等、最新の国の動向について説明いただきました。

#### 我が国が直面する未来

- ・生産年齢人口が約半分になる。
- ・新たな技術で世の中が容易に塗り替えられる。
- ・今ある仕事の半分が消える。
- ・未だ見ぬ仕事に就く人が大半となる。
- ・大半の日本人が100歳まで生きる。
- .....

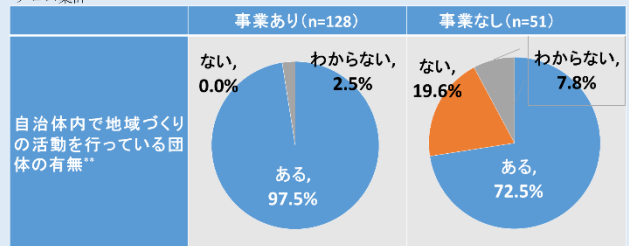
#### 社会教育はどうあるべきか？



### 調査研究報告

道立生涯学習推進センター主査 尾山 清龍

「問3担い手育成事業の有無」と「問1自治体内で地域づくりの活動を行っている団体の有無」のクロス集計



調査研究の報告では「教育委員会が地域の担い手育成事業を行うと、その自治体内で地域づくりの活動を行う団体は多くなる」こと等、「地域づくりの担い手育成」に関する調査により明らかになったことを報告しました。



### 事例研究

沼田町住民生活課移住定住応援室兼  
教育委員会主査 岩井 俊直 氏



- 元社教主事が首長部局で移住定住の取組を推進。
- 沼田町の潜在的な価値を高めるブランディングを通じ、住民意識を役所の事から自分事へ。
- そこで出た意見をもとに、「シェアハウス DIY 事業」をスタート。
- ブログ閲覧回数急増→移住体験の問合せ、報道機関の取材の増加→マチの取組が住民に浸透。
- 現在の業務で広報、会議の運営、事業企画等で社会教育行政経験が大きく生かされている。
- 社会教育の経験がなければ事業は成功しなかったと思う。

真狩村総務企画課商工観光係長  
藤本 篤 氏



- ・元社教主事が首長部局で観光振興の取組を推進。
- ・社会教育主事として各種計画策定、多くの事業を手がけた。
- ・観光や地域づくりに関わる多様な関係者を集めたセミナーを開催。
- ・セミナーの開催を通じて、観光や地域づくりについて、共に考える機会を創出。
- ・多様な関係者が一緒に考えることで、意識が向上、より主体的に具体的な行動へ。
- ・社会教育の視点が、セミナーの企画・運営、関係者のモチベーション向上に役立った。

## 事例発表

### <青年の活躍>

高校の活動を地域に伝える「ハイスクールフェス事業」  
中標津町教育委員会社会教育主事 和田 康弘 氏

「ピュアモルトクラブ活動支援事業」  
鹿追町教育委員会社会教育課社会教育係長 迫田 明巳 氏

### <高齢者の活躍>

「スクールガードボランティア交流・研修会の取組」  
稚内市教育委員会社会教育課社会教育G主査 大沼 拓哉 氏

「おびらふるさと塾」  
小平町教育委員会社会教育課文化係長 長澤 政之 氏

### <家庭教育支援>

「家庭教育なんでも相談『さあ来る』の取組」  
家庭教育なんでも相談さあ来る代表(岩見沢市) 高橋美智子 氏

「小樽市『わくわく共育ネットワーク』の取組」  
小樽市教育委員会生涯学習課生涯学習グループ主査 佐野 英昭 氏

### <地域学校協働活動>

「様似町における学校支援事業の取組」  
様似町教育委員会社会教育係主事 鈴木 貴也 氏

「壮瞥町における地域学校協働活動」  
壮瞥町教育委員会課長補佐(社会教育主事) 永堀 善之 氏

## 分科会

事例発表を受け、「地域活動の活性化に作用する行政側からのアプローチ」について、4つの分科会に分かれて協議しました。

### ◆◆◆各分科会のテーマとファシリテーター◆◆◆

#### 第1分科会：「青年の活躍」

弟子屈町教育委員会公民館学習推進係長(社会教育主事) 杉崎 瑞穂 氏

#### 第2分科会：「高齢者の活躍」

上富良野町教育委員会教育振興課社会教育班主事 小田島亮悟 氏

#### 第3分科会：「家庭教育支援」

長沼町教育委員会社会教育課社会教育主事 伊藤 義斗 氏

#### 第4分科会：「地域学校協働活動」

福島町教育委員会社会教育主事 西原 聡 氏

### ◆◆◆主なグループワークの展開◆◆◆

今後の地域活動を活性化するための有効なアプローチを見出すために、「アプローチの方法」について様々な例を挙げて整理。

「対象(団体等)の主体性・自立の度合い」と「対象(団体等)の意識・モチベーション」に応じたアプローチの仕方について、相関の中で整理。

効果的なアプローチを行えば、対象が変容するという作用について、個人ワークで提案。

最終的に、対象の様々な状況に応じた、有効なアプローチが提案されました。

## 全体会

各分科会での研究協議の内容を参加者で共有し、今後の取組や方向性について考えを深めました。

### <各分科会の代表的な「アプローチの方法」>

- 企画の始めの段階で若者に行政課題を提示する。
- 高齢者のモチベーションを上げるために感謝状・表彰などの贈呈を行う。
- 子育てサークル等のモチベーションが低く、自立が進んでいないところには、行政が事業を行うなどつながる場の提供を行う。
- 学校の環境が十分に整えられる前に行政の側から建設的な提案をする。



## 特別講演

「生涯学習・社会教育における学びと活動の循環を促すための方策」

講師 学校法人文教大学学園理事長

野島正也氏

- 人生100年時代を見据え、高齢者が身近なところで、元気に地域とかがわっていく。そして、その人が元気の種をまき、広がっていく。こうした循環が大切。
- 高齢者は社会から支えられる存在ではなく、地域が抱える課題を解決する「地域社会の主役」として活躍できる環境整備が必要。
- 社会教育の関係委員や職員、生涯学習実践者への期待として、学びと実践の循環を促す「気風」を醸成し、地域のつながりをつくるために関係者が「指導者」から「主動者」となり、各地域で活躍してほしい。



事業報告書は道立生涯学習推進センターホームページに掲載しています。

